「生命（いのち）のがん教育」

～令和５年度実施校を募集します～
（実施校は累計約６５０校です！）

医師等が易しく丁寧に解説し、経験者が生命の大切さを語り、ともに考えます。

京都府独自の副読本を受講者全員にお渡ししています。

「副読本」
大切な方と一緒にご覧下さい。

いま、なぜ「がん教育」なのでしょう

日本人の２人に１人が一生のうちにがんになるといわれており、死亡原因の第１位もがんです。がんは私たちにとって大変身近な病気です。

しかし、多くのがんは、生活習慣を改善することで予防できます。近年はウイルスや細菌の感染が原因とされるがんがあることも分かり、適切な予防と治療でがんの罹患を防ぐことができます。

また、医療の進歩により、がんになっても、早くみつけて適切な治療をすることで、普段の生活に戻れるようにもなりました。

がんのことを正しく学び、自分に何ができるかを考えて、がんという病気と向き合うことが大切です。

令和４年度から高等学校の保健体育においても「がん教育」が始まりました。

京都府健康福祉部健康対策課

○がん経験者の闘病体験談（授業の中での紹介例）

今から 10 年程前、大腸がんが見つかりました。それも早期ではなく進行がんでした。私には主人と３人の息子がいます。家族みんなそれぞれが「いるのが当たり前」、明日も当たり前の普通の日がやってくると思っていました。ところがそんな「いるのが当たり前」の家族の１人が突然いなくなるかもしれないという事態になりました。当時、三男は高校入試を控えた中学三年生でしたが、私の手術の日が息子の高校入試の日と重なってしまいました。前日まで仕事をしていた私は「がん」と言われ突然の手術になっても、息子の入試のことで頭が一杯で、動揺する余裕もありませんでした。

がんになったことで、「いるのが当たり前」の大切な人がいなくなるかもしれないこと、普段の日々が当たり前にやってくるものではないことを改めて感じました。

もう少し遅かったら、手遅れになっていたかもしれない私ですが、せっかくたくさんの方に助けていただいた命なら、毎日精一杯、何でも笑顔で楽しんでしまわないともったいないし、申し訳ないと思います。周りの方々への感謝を込めて。

一日一日の大切さ、すぐそばにいる大切な人の優しさ、あたたかさ、当たり前にある何気ない普通の毎日を過ごせることが、どれだけ大切でどれだけありがたいのかを皆さんにもお伝えしたいと思います。

○授業実施後の児童・生徒の感想

がんはとっても身近であると分かったので、適度な運動をし、生活習慣を整えたいです。しっかり検診をしに行ったり、早期発見できるように、大人になっても今日の話を覚えておきたいです。（高校生）

２人に１人ががんになるのは知りませんでした。でも診断して早く見つけたら治る確率が高いから、怖がらず診断にいきたいです。（支援学生）

がんに絶対にならないということはできないけど、規則正しく生活したいです。だんだんと悪くなっていくから早めに見つけて治療することが大切だと分かりました。（小学生）

がん患者さんの話を聞いて、周りのサポートが大事だなと思いました。理解をより深めて、自分がなったときも、大切な人がなったときも、正しい行動ができるようにいていきたいです。（中学生）

生命のがん教育実施校募集！

授業の実施を希望される学校は、下記までお問い合せください。

問い合わせ先：京都府健康対策課　075-414-4766

より詳しい情報は京都府のホームページ（生命のがん教育）、
「生命（いのち）のがん教育」の記録（実施報告書）をご覧ください。

「生命（いのち）のがん教育」の主な内容

1 教育における視点（小児がんは取り扱いません。）

- ●がんに関する正しい知識の定着・普及
- ●児童生徒を中心に家族で取り組むがん予防の実現
- ●健康的な生活習慣の習得
- ●早期発見・早期治療の重要性の認識
- ●周囲の支えなどの必要性を認識
- ●自他の健康と命の大切さの理解

2 教育のねらい

がんの発生メカニズムを学習する事によって、がんは誰でもなる可能性があることを理解し、正しく向き合う意志を育む。

▼

がんは、たばこやお酒、食事や運動など日常の生活習慣と関わりが深いことを知り、家族と共にがん予防に努める態度を育む。

▼

がんは100%予防することは不可能であることから、症状が出る前に発見し治療する「がん検診」の意義を理解し、実行力を育む。

▼

がん経験者の体験談から自他の健康と命の大切さに気づき、共に生きる社会づくりを目指す態度を育む。

3 教育の効果

●医師等が白衣を着用し、分かりやすいスライドを用いて専門用語を使わず易しく丁寧に講義をするので理解しやすいと評価されている。

●たばこが何にもまして発がん率を高めることを理解することにより、禁煙の重要性と受動喫煙の危険性に対する認識が深まると評価されている。

●がん経験者の具体的な体験談により、家族や友人等の大切な人たちの存在を再認識し、感謝や思いやりの気持ちを高めることが出来ると評価されている。

●保護者が参観した学校では、学習内容が家庭でも話題となり、家族で内容を深めることができたと評価されている。

4 授業の流れと主な内容（例：50 分授業）

※授業時間の長短や保護者参観としての実施など、調整可能です。

担当者	時間	主な内容
授業担当者	短時間	動機づけと紹介
医療従事者の講義	25 分程度	【がんについての講義】 ◎がんに関する基礎知識 ・がんのできるメカニズム ・がんは死亡原因の第１位 ・遺伝や感染 ◎がんの予防について ・がんになりにくい生活習慣 ・喫煙・受動喫煙とがんの関係 ◎がん検診について ・早期発見、早期治療の重要性
授業担当者	短時間	つなぎ
がん経験者の体験談	20 分程度	【がん闘病の体験談】 ◎がんの発病(発見)について ◎治療について ◎周囲とのかかわり ◎伝えたいメッセージ
授業担当者	短時間	質疑応答（質問はこの機会のみ）

※校種に応じたスライドを使用し、各校の事情に配慮した講義内容の相談が可能です。

5 授業実施後の教職員の感想

【小学校】

・分かりやすい言葉でお話をしていただき、がんについて正しく知り理解を深めることができました。２人に１人ががんになると言われる時代ですが、好き嫌いをせず十分に睡眠をとって、規則正しい生活を送ることががんの予防につながるというとは、児童にとって普段の生活で意識しやすく理解につながったと思います。

【中学校】

・「がん」という病気について詳しく教えていただくことで、たばこの害や生活習慣の乱れが良くないことを再認識することができています。また、メッセンジャーの話を聞き、身近な事としてとらえることができ、検診を受け早期発見をすることの大切さや周りの人たちを大切にする気持ち、今から自分たちができることをするということも学ぶことができました。

【高等学校】

・がんについての基礎的な知識を分かりやすく教えていただき、生徒は改めてがんの罹患率の高さ、予防や検診の大切さを理解できたと思います。また経験者の方の話を通じて、家族にがん経験者がいる生徒からは「これからはこんなふうに接していきたい」や、他の生徒からも「もしも家族や友人ががんにかかったらこのように支えていきたい」などの感想が多く、生徒にとって大変有意義な時間であったと感じました。今後はがんだけでなく自分の身体を大切にし、健康への意識を高めていってもらえればと思います。

【支援学校】

・講義の中でがんを経験された方の経験談があったり、専門的な内容を医師から分かりやすくお話をしていただいたりするなど、生徒にとっては大変分かりやすい講義であったと思います。生徒は日頃の生活を振り返り、生活を見直すきっかけになるなど、大変有意義な講義でした。